

[1月9日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

ぎうさ
わだゆり
小二

柳橋香仙先生

幼・小学1年参考手本

くどうみみ
さ

工藤永翠先生

わへい
小二
山田えみ

坂本素雪先生

小一
すどうさくや
ゆめ

白石和楓先生

〔1月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

小学3年参考手本

小四 毛利美子

毛筆

橋本玉扇先生

小三 山川花子

空工

佐藤菜扇先生

小四 小田成子

福笑

武山櫻子先生

小三 白石洋

大会

北村白琉先生

〔1月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

小六 水木れい
湖水

種谷萬城先生

小学5年参考手本

小五 番野実
動く

一谷春窓先生

小六
古賀小春

め事始

前田龍雲先生

小五

平田礼

野原

小竹石雲先生

〔1月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



辻元大雲先生



半田藤扇先生



下谷洋子先生

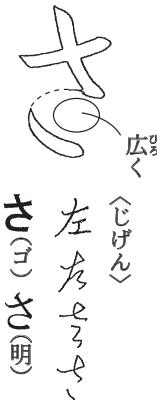


広瀬舟雲先生

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。
ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年

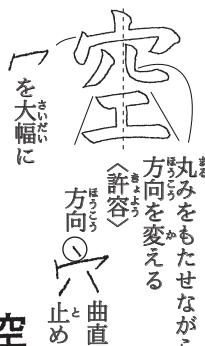


大
ひろく
左
じげん
右
じげん

大
ひろく
左
じげん
右
じげん

大
ひろく
左
じげん
右
じげん

3年



空
ひつじゅん

空
ひつじゅん

空
ひつじゅん

4年

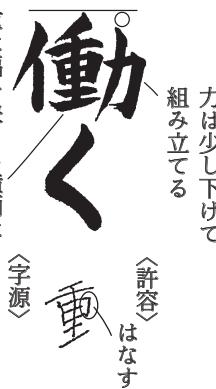


毛筆
ひつじゅん
幸
ひつじゅん

毛筆
ひつじゅん
幸
ひつじゅん

毛筆
ひつじゅん
幸
ひつじゅん

5年

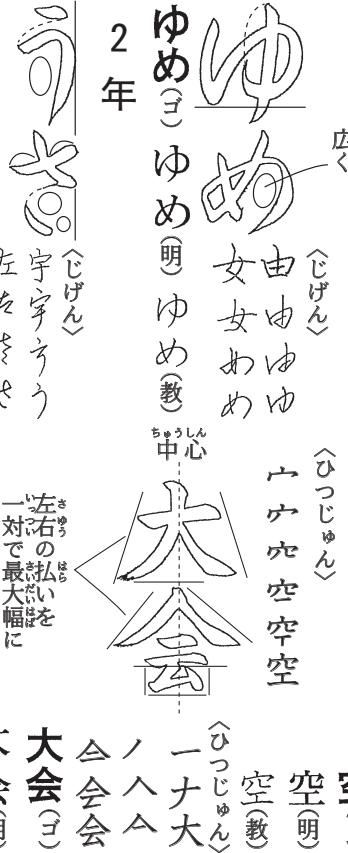


動
ひつじゅん
重
ひつじゅん

動
ひつじゅん
重
ひつじゅん

動
ひつじゅん
重
ひつじゅん

2年



ゆめ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

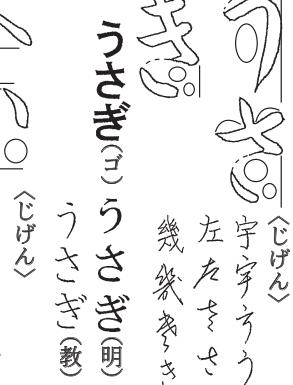
ゆめ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

ゆめ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

野
ひつじゅん
原
ひつじゅん

野
ひつじゅん
原
ひつじゅん

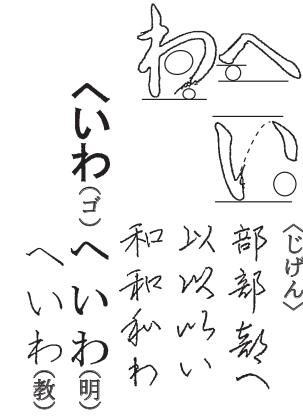
野
ひつじゅん
原
ひつじゅん



うさぎ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

うさぎ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

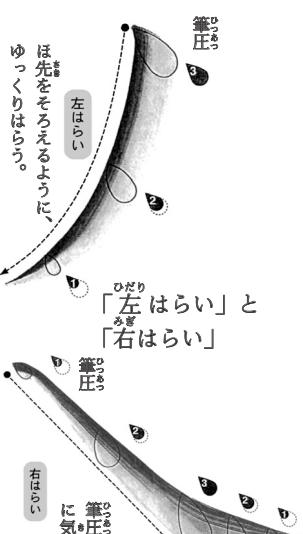
うさぎ
ひつじゅん
空
ひつじゅん



いわ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

いわ
ひつじゅん
空
ひつじゅん

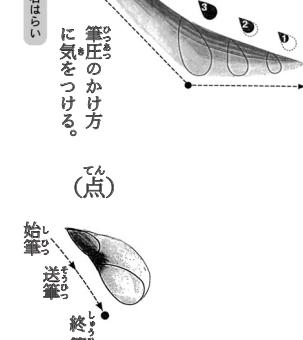
いわ
ひつじゅん
空
ひつじゅん



大会
ひつじゅん
空
ひつじゅん

大会
ひつじゅん
空
ひつじゅん

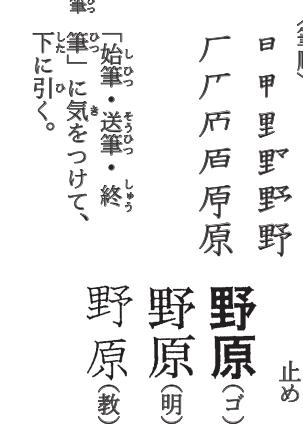
大会
ひつじゅん
空
ひつじゅん



福笑
ひつじゅん
空
ひつじゅん

福笑
ひつじゅん
空
ひつじゅん

福笑
ひつじゅん
空
ひつじゅん



野原
ひつじゅん
空
ひつじゅん

野原
ひつじゅん
空
ひつじゅん

野原
ひつじゅん
空
ひつじゅん

毛筆参考手本解説(2)

6年

中学

点画の省略

(374)

「国語科書写しの理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

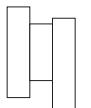
湖水

月

湖水(明)

湖水(教)

生まれ故郷



組み立て方

白雪紅梅

点画の省略

め事始

ムは折れてから
右上に払う

許容
出ない

女

生まれ故郷(ゴ)

生まれ故郷(明)

(教)

やさしい行書

接する

文文文

止め

はなす

次へ続く感じで

ゆき

朝ぼらけ
有明の月と
みるまでに
吉野の里に
ふれる白雪

あさひ
あさひの月と
みるまでに
吉野の里に
ふれる白雪

短歌

払いから横画

払いが
止めになる
ことがある

現代語訳

明け方、空がほのかに明るくなってきた頃、有明の月とかと思ふほど明るく、吉野の里に白々と雪が降っていることだよ。

坂上是則
(作者)

上是則

しらゆき(H)

ゆき

△突き返す
ところ

連綿を用いない参考手本

源字	字形
き	ゆ
幾	由
ゆ	ゆ
ら	良
し	之
ら	し
し	し

ひらがなの字源

硬筆参考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

『おもち』
「とめ」「はね」「はらい」にきをつけて
かきましょう。

まるいおもち

がやけました

つかもとみあ

も(ゴ) も(明) も(教)

ま(ゴ) ま(明)
ま(教)

ま

ひつじゅんにちゅうい
むすびのかたちに

とめ
ひつじゅんに

ちゅうい
ちゅうい

③ ② ① や も

や(ゴ) や(明) や(教)

『しんねん』
ひつじゅんにちゅういして、たやすく
きましょう。

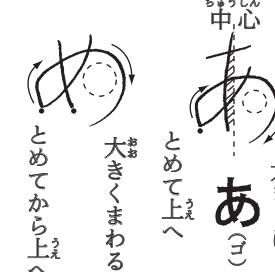
あ
あ(ゴ) あ(明) あ(教)

あ
あ(ゴ) あ(明) あ(教)

とめて上へ

大きくまわる
あ
あ(ゴ) あ(明) あ(教)

とめてから上へ



め
め(明)
め(教)

す
す(明)
す(教)

支部名	と	う	一	こ	ぞ	い	ま	し	て	お	め	で
段・級	と	う	一	こ	ぞ	い	ま	し	て	お	め	で
学年	二											
名前	山	本										
支部名	心											



みじかく
はらう
むすびにちゅうい

す
す(明)
す(教)



め
め(明)
め(教)

す
す(明)
す(教)



あ
あ(ゴ) あ(明) あ(教)

あ
あ(ゴ) あ(明) あ(教)

す
す(明)
す(教)

幼・小 学 1 年

小 学 2 年

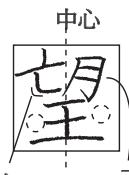
[1月9日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年

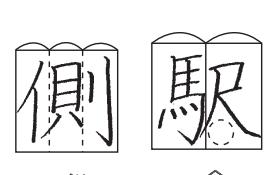
小学3年

支部名	見 上 げ ま し た 。	ある て ん 望 台 か ら 星 を	山 の 駅 の 向 こ う 側 に
段・級			
学年	四		
名前	大友一志		

支部名	大 会 を し ま し た 。	広 い 教 室 で 力 アル タ
段・級		
学年	三	
名前	海地青里	



まがり

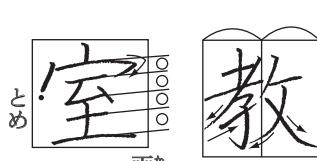


『てん望台』字形を整えて、つりあいよく書きましょう。
はらい

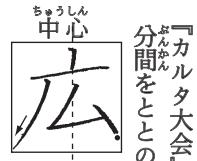
側 (3)
側 (3)
側 (明)
側 (教)
駅 (3)
駅 (明)
駅 (教)

〔筆順〕
組み立て方に注意
「れっか」の方向

〔月〕をやや右にかたむける
望 (3) 望 (明) 望 (教)



「カルタ大会」分間をとのえて、正しく書きましょう。
「ム」は中心よりやや右に
のびやかにはらう。
とめ
組み立て
はらいの方向にちゅうい



「カルタ大会」分間をとのえて、正しく書きましょう。
「ム」は中心よりやや右に
のびやかにはらう。
とめ
組み立て
はらいの方向にちゅうい

[1月9日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年

小学5年

支部名	から 敬愛 されて いる。	しい 人な ので 、	あ の 人は 誠実 で みんな	は や さ
段・級				
学年	六			
名前	安田 準一			

安心で きま す	け ば 、 い ざ と い う 時 に	防火設 備を整 えてお



愛 (ヨ) 愛 (メイ) 愛 (カイ)

それぞれのはらいの方向と
長さに注意



実 (ヨ) 実 (メイ) 実 (カイ)

八画目の起筆は六画目



誠 (ヨ) 誠 (メイ) 誠 (カイ)

筆順

文字の外形を見て、形を整えましょう。
点の位置に注意



整 (ヨ) 整 (メイ) 整 (カイ)

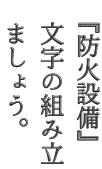
口 下がる



設 (ヨ) 設 (メイ) 設 (カイ)

防 (ヨ) 防 (メイ) 防 (カイ)

筆順



『防火設備』
文字の組み立て方に注意して、字形を整えましょう。

[1月9日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生(行書)

中学生(楷書)

支部名	
段・級	
学年	
中二	
名前	仲本 結菜
仲本 結菜	

「矛盾」という言葉は、中国の古い
逸話がもとである。
私たちには、故事、成語をよく使う。

葉 (楷) → 葉 (行)
私 成 話

葉 (楷) → 葉 (行)
私 成 話

・行書のワンポイントアドバイス
(くさかんむり) の行書

次の線につなげる気持ちで

支部名	
段・級	
学年	
中二	
名前	仲本 結菜
仲本 結菜	

中心 成 成 成 成 成

最大幅にし上にそらす
〔許容〕 木 木 木 木 木 木
〔筆順〕 木 木 木 木 木 木
一 二 三 四 五 六 七
止め 止め 止め 止め 止め 止め
〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕

葉 葉 葉 葉 葉 葉
〔筆順〕 一 二 三 四 五 六 七
止め 止め 止め 止め 止め 止め
〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕 〔はね〕

〔矛盾〕と云ふ言葉は
漢字を少し大きめに書きましょう。

〔そり〕は長くする
〔筆順〕

これからのお作品締切日と課題

R5年3月号までの作品締切日と毛筆課題

小 5

へ	た	あ
行	め	す
く	バ	、
予	ス	、
定	で	社
で	国	会
す。	会	科
事	見	見
堂	学	学
の	堂	の

幼・小 1

ら	お	金	ミルク
い	に	づ	きもの
ま	を	ち	もの
し	お	土	きもの
た	い	星	きもの
。	は		

2月号の硬筆課題

※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

中学生 (全学年共通)	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	幼・小 1	締切日
の太陽系	観察	発展	クレヨン	切手	金づち	ミルク	な
たけうま	三寒四温	氷点下	最初	とりの声	土星	きもの	おに
尽くす	卒業式	公式戦	信念	竹ざいく	テレビ	もけい	み
花の上なる 月夜かな	万里長城	世界地図	花だより	緑茶	白くま	リズム	むれ

小 6

つ	が	
オ	ふ	冬
リ	た	の
オ	つ	夜
ン	の	、
座	一	高
で	等	さ
す。	星	。
。	を	引
持	く	く
の	の	の

小 2

う	は	は	か	か	つ	て	し	ら	べ	よ
、	長	か	つ	て	し	ら	べ	よ		
長	さ	っ	て	し	ら	べ	よ			
さ	、	は	か	つ	し	ら	べ	よ		
、	高	か	つ	て	し	ら	べ	よ		
高	さ	く	て	し	ら	べ	よ			
。										

小 3

で	立	立	春	は	こ	よ	み	の	上
春	が	春	始	ま	ま	ま	ま	ま	ま
が	始	始	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
始	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま

中学生

二十一世紀	の	今	日	に	お	い	て
国際的な会議	で	は	英語	が	重	要	
な役割を果たす場合が多い。							

小 4

か	書	書	学	校
ざ	い	い	校	
り	た	た	で	
ま	絵	絵	一	
し	と	と	生	
た	作	作	け	
。	文	文	ん	
文	を	を	命	
家	家	家	に	
に	に	に	に	



書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

小中学生のお正月の課題というと「かきぞめ」が定番です。今回は、かきぞめのルーツについてお話しします。

「かきぞめ」という呼び名となったのは、江戸時代になってからですが、年始に縁起が良い言葉を書く習慣が始まったのは、平安時代、宮中における「吉書の奏」という行事がルーツのようです。吉書とは、物事が改まつたのち、良いことがある日を選んで奏聞する(天皇に申し上げる)文書です。吉書の奏は、年始だけではなく、元号が改められた時・代替わりした時など、物事が改まつた節目に、清涼殿にお出ましになられた天皇に弁官、蔵人などから吉書を奏上する儀式で、政治がつづがなく進行していますという慶賀を述べるものでした。

鎌倉時代、武家政権になつてからも同様に将軍が吉書をご覧になり、花押を据える儀式が行われ、これが「吉書始」と呼ばれました。吉書始の最古の例は『吾妻鏡』元暦元年十月(一一八四年)に公文所の新造に合わせて行われたことが記されています。その後、年始や将軍の交替わりなどに際して政所などから選ばれた奉行が吉書を作成し、将軍が総覽する「吉書始」が慣例化しました。しかし、鎌倉幕府においては、源頼朝・頼家・実朝といった三人の将軍時代が終わると、これ以降に年始の「吉書始」以外は行われなくなつていったといいます。

室町幕府になるとまた、「吉書始」が再興され、奉行衆の中から吉書の作成・清書を担当する吉書奉行が設置され、特に毎年一月二日に管領邸に赴く「御成始」の際に行われた年始の「吉書始」は大々的に行われたといいます。

江戸時代になると、この吉書始が庶民の間にも広がり、「新年に書をかく」という行事となり今日に至ります。

「書初」という語の初出は、江戸時代前期の俳人・野々口立圃が著した俳諧論書『はなひ草(花火草)』寛永十三年(一六三八)といいます。書初で書いたものは、松の内まで飾っていた松飾りやしめ縄、前の年にいただいたお守りなどを一緒に、神社や地域の広場・畠などで「どんど焼き」として燃やしました。その炎が高く上がる字が上達するといわれるようになります。「どんど焼き」は、地域によって名称がいろいろありますが、現在でも実施されているところがあります。

「かきぞめ」は、季語としては「書初」と記しますが、「書初め」とも記します。ほかに、試毫、試筆／始筆、筆始／筆始めとも記します。子供の書初めには書きませんが、大人の作品の中に「令和五年試筆 太郎書」のような落款が記されていましたらこの作品は、「太郎さんが書いた令和五年のかきぞめ」という意味となります。

今月のホープ



小六 川崎 千愛里（福山塾支部）

見応えのある書きぶりで感動しました。始筆・終筆、はね・払いと用筆の確かさが品格を生み真摯な姿が窺えます。

支部名	華芳
段・級	
学年	中三
氏名	白鳥蓮
祭りはどこか懐かしい気持ちを抱かせる。それは、そこで暮らす人々の温かい心に触れるから。	

中三 白鳥 蓮（華芳支部）

正確な筆法で書いており、字形もすばらしく行の流れ良く堂々として落ち着きのある清々しい立派な作品です。



小三 木村律貴（東庄支部）

しっかりとした書きぶりで各点画どうぞうとしています。名前もよく書けていて大変よいと思います。

支部名	吉久
段・級	
学年	五
氏名	水越佳弥
校内美化を委員会と協力して、全校集会で	

小五 水越佳弥（吉久支部）

線間均一で美しい字形です。運筆素直で、漢字とかなのバランスも良く、穏やかで落ち着きのある作品です。

秋季昇段級試験最優秀作品



中三 望月陽愛（椿翠支部）

筆先の弾力を生かし伸びのびと清爽な行書です。気脈の流れも自然で、名前まで一貫した筆意に心配りを感じます。

支部名	東葉
(段・級)	準特
準特	学年
学年	中三
氏名	菅澤煌妃

秋の彼岸のころ真っ赤な
花を咲かせるヒガンバナは、球根
だけでふえる植物です。

中三 菅澤煌妃（東葉支部）

一点一画をおろそかにせず紙面に着実に定着させています。文字のふところを大きくさせ爽快です。鍛錬の結晶が宿っています。



小六 林真優（東庄支部）

生彩感にあふれた堂々とした書きぶりに感動しました。特に転折、払い、はねなど用筆の確かさは見事です。

支部名	一貫
(段・級)	準特
準特	学年
学年	六
氏名	山内志織

歌です。
て生まれた伝統的な詩
短歌と俳句は、日本

小六 山内志織（一貫支部）

おだやかであたたか味があり字形が大変よく整っています。明るい線の表情がとても魅力的で練習の成果が光ります。

2月号毛筆参考手本（予告）2月6日締め切り分

幼・1年

3年

5年

中学

な

ほし
たろう

おに

小一
三田れん

金づ

小三
中川和子

土星

小三
三田知子

ヨク
ンル

小五
川上洋一

最初

小五
水谷洋子

観察

中二
神田東

四
三
温
寒

中二
松岡彩生

ミル

小二
たなかみき

切手

小四
山本けい

発展

小六
山中聖一

太陽系
の星

中三
前田元気

きも

小二
木下あこ

の声

小二
根本香

下冰点

小六
三田真美

たけ
うま

中三
椿らやか

2年

4年

6年

ました。

先生からのお言葉を今後の学習に生かしてください。

○朝晩、寒くなつて来ました。また新型コロナ感染者数が全国すべての地域で増加傾向にあります。体調管理をしっかりとお過ごしこうございました。

○秋季昇段級試験の最優秀作品、特待生合格者氏名を掲載いたしました。おめでとうございました。

2月号毛筆参考手本

○謹賀新年 2023年の干支は「癸卯（みずのとう）」年です。「癸卯」は十干の「癸」と十二支の「卯」の組み合わせです。

「卯」は十一支の中で四番目に数えられます。「卯」は動物「兔」に対応しています。「兔」は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」また、その跳躍する姿から「飛躍」

「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。皆さんにとりまして素晴らしい成長の一 年となりますように願つております。

○秋季昇段級試験の結果が皆さんのお手元に届いたと思います。審査長の下谷洋子先生より秋季昇段級試験の総評を頂きました。